

DISCOVER B.A.

FAMILY

ピアノ教師との交流から生まれた 手づくりの演奏会は家族みんなが主役



共働き夫婦と息子達の
「ふんじやった演奏会」

手島伸夫さん(49)の私用名刺はふるっている。表には勤務先の東亜道路工業と自宅の連絡先が、裏には参加している勉強会や取得している資格名に並んで、「Funjatta演奏会」主催、と刷り込んである。

ふんじやった演奏会？

「ええ、『ネコふんじやった』のふんじやったです。演奏会のオープニングに、次男と『ネコふんじやった』を連弾するんです。それで、ふんじやった演奏会」と、伸夫さんが説明すると、すかさず次男の裕くん(15)が、「おっとうはウケをねらって、毎回、音をはずすんですよ」とかからう。

「いや、緊張してホントに間違えちゃうんだよ」と伸夫さん。

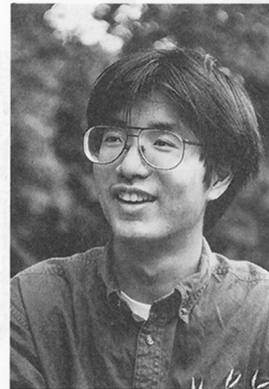


共働きで22年。勤務時間が不規則な恵子さんに代わって、伸夫さんは朝食も子供達の弁当も作ってきた

仲のよい親子である。父をおっとう、母をおっかあと呼ぶ手島さん一家は、夫婦に息子2人の4人家族。妻の恵子さん(49)は29年間、KDDにオペレーターとして勤務してきたが、この9月に早期退職する予定で、ただ今は転職準備休暇中。簿記の学校に通いながら「しばらくはノンビリするつもり」だ。

長男の仁くん(17)は音楽が好きな高校3年生。昨年は音楽部の部長も務めた。5歳から始めたピアノは今も続けていて、一日に一度はピアノに向かう。「好きな曲を弾いたり、作曲したり。ピアノが好きなんですよね」と言う。

弟の裕くんも兄のあとを追って、4歳からピアノのおけいこを始めた。「兄貴と違って、ボクのはうは10年以上かかって、ようやく昨日からピアノに目覚め



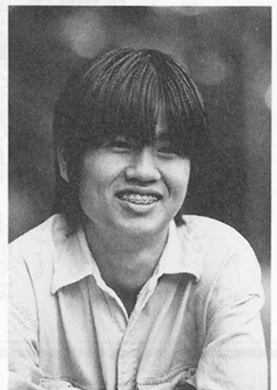
た」とおどける。兄ほど得意ではないが、それでも「続けていてよかった」と思っている。

ピアノ、サクソス、琴… 一緒に音楽を楽しむ

一家が「ふんじやった演奏会」を開こうと思いついたのは、仁くんと裕くんがピアノを教える武田先生の影響による。

武田先生は音大の学生時代から、手島さんの自宅にレッスンに通ってくれていて、もう6年になる。ピアノのおけいこばかりでなく、昼間家にいない母に代わって、仁くんや裕くんの相談相手も務めてくれている。

「学校のこと、友達のことなど、むしろ年の近い武田先生のほうが話しやすいのかもしれない。息子のカウンセラーになっていただいています」と恵子さん。家族みんなが信頼を寄せる武



田先生のレッスンは、「音楽はリラックスして楽しむもの」という考えに貫かれていて、子供におけいこを無理強いしない、子供が弾きたい曲を優先する、間違えても叱らない…。これまでレッスンを受けたどの先生よりも、武田先生は大きな気持ちで手島兄弟を包んでくれた。

「ウチが主催してコンサートをやろうよ、と思いついたのは、まだ生徒さんが少なくてご自分では発表会を開く機会がなかった武田先生のために、ステージを提供したかったからなんです。そして、一緒に音楽を楽しもうよ、と友達や親戚にも参加を呼びかけました」と、演奏会のコーディネーターを自認する伸夫さんが、「ふんじやった演奏会」誕生のいきさつを話す。

呼びかけにこたえて、第一回の演奏会には16組、第二回にはそ



「ふんじゃった演奏会」の会場となる大倉山記念館は緑豊かな大倉山公園の中にある。ここは家族の散歩コースだ

お気に入りのホールで 飛び入りの演奏も

れを上回る26組がステージに上がった。ピアノ演奏ばかりでなく、仁くんの高校の音楽部のコーラス、いとこ達のサクソとフルート、兄弟が通った学童保育の先生の琴、ママさんコーラス。武田先生もデイズニー映画の名曲を弾いてくれた。

会場は第一回から、自宅のある横浜市港北区の東横線・大倉山駅にほど近い大倉山記念館のホール。ギリシャ神殿のような外観をもつ大倉山記念館は、大倉財閥が昭和初期に建てた歴史的な建造物だが、17年前に横浜市に寄贈され、今は市民に開放されている。

「初めから、会場はここ、と決めていました」と恵子さん。定員80人のホールは、ステージの



クラリネットと共奏する長男の仁くん(上)。オープニングは「ネコふんじゃった」の連弾(右)



両わきを木組みの円柱が支えるクラシックな造りで、規模といい、雰囲気といい、ミニ演奏会にはうってつけだ。

第一回も第二回も、客席はぎっしり埋まった。毎回、開会の言葉を述べる裕くんが「もう、緊張しまくりだった」と言えば、伸夫さんは「当日になって、演奏させてくれ、と言ってくる人もあって、終わるまで何が飛び出すかわからないですよ」と笑う。飛び入りも拒まない。手づくりのプログラムにも、「当日になっての変更が十分考えられます、よろしく」と小さく書いてある。

第3回の演奏会は今年の10月10日と決まっている。裕くんが「おっとう、今度はネコふんじゃった、間違えるなよ」と、今からさりげなくプレッシャーをかけている。